

水稻品種「まなむすめ」の葉色の推移

農業センター

1 取り上げた理由

平成9年に奨励品種に採用された「まなむすめ」は、品質・食味が安定して良好であるという特性が高く評価され、作付け要望が急増している。

そこで生育特性のうち、「ひとめぼれ」と比較した葉色の推移について、その特徴を把握したので参考資料とする。

2 参考資料

1) 移植後1ヶ月程度、「まなむすめ」の葉色値（SPAD502）は、「ひとめぼれ」とほぼ同じ値で推移する。

2) その後、「まなむすめ」の葉色値は徐々に低くなり、出穂期以降まで「ひとめぼれ」より淡く推移する。

その程度は、7葉期頃から幼穂形成期頃にかけて、葉色値でほぼ3～4ポイントである。

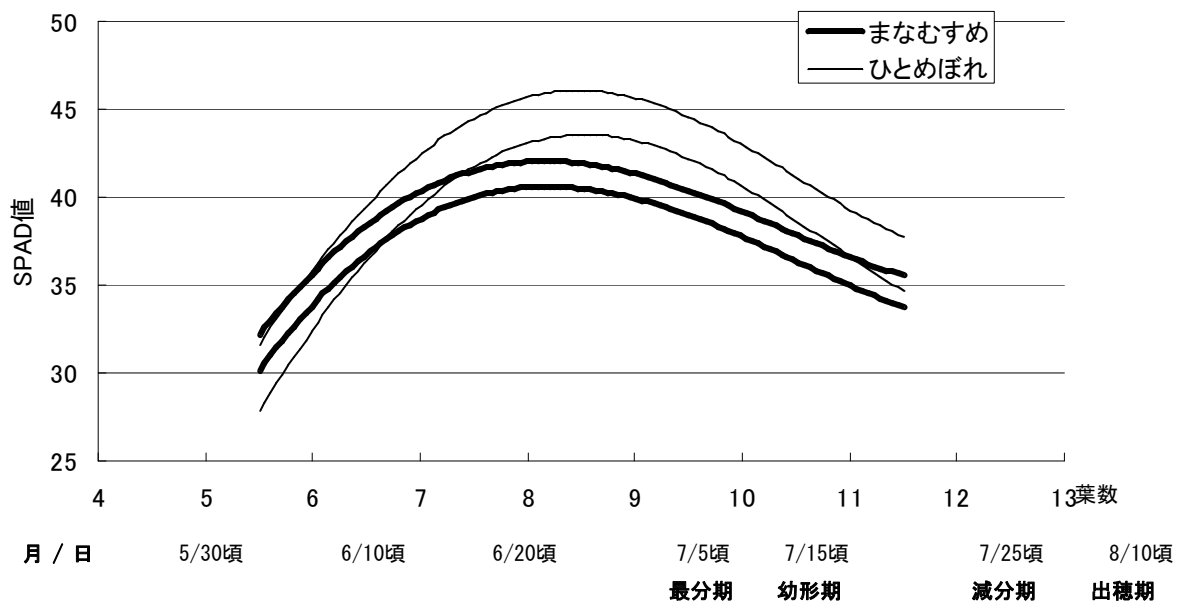


図1 「まなむすめ」及び「ひとめぼれ」の葉色値（SPAD502）の推移

注) 参考データ(図2)の95%信頼区間を示した

3 利活用の留意点

1) 次年度以降、葉身窒素濃度を検討し、草丈(稈長)、茎数(穂数)及び葉色も含めた期待生育曲線を作成する。

2) 栽培の基本については、「普及に移す技術第72号」を参照する。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

商品性の高い宮城米の高水準安定生産技術の確立 平成7年度～9年度
 優れた品種特性を生かした水稻栽培技術の確立 平成10年度

2) 参考データ

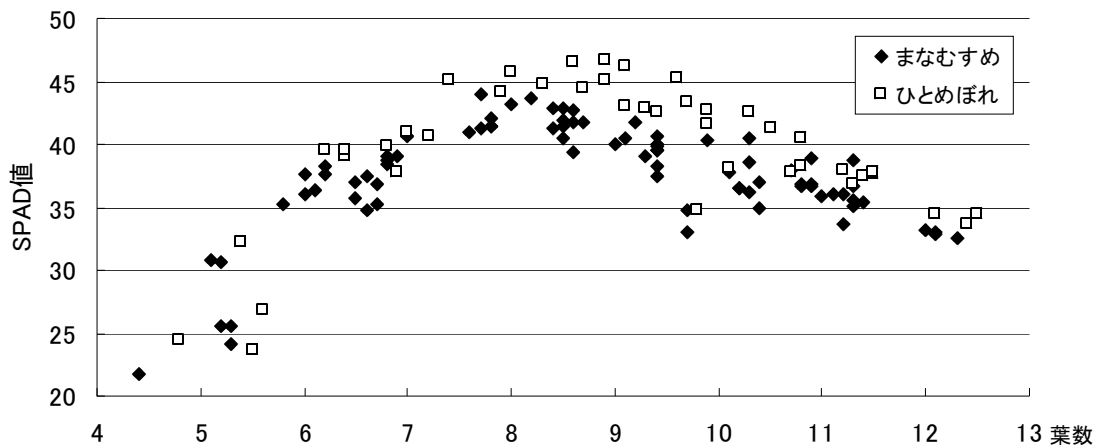


図2 葉色値 (SPAD502) の推移 (平成7～10年 農セ)

注) 追肥時期・量は一定ではないが、粒厚1.7mm以上で約600kg/10aの収量を確保した試験区を集約した。

表1 利用した試験区の籾数及び収量等 (農セ)

品種名	年次	出穂期 月/日	成熟期 月/日	m ² 籾数 × 100 粒	玄米収量 kg/10a
まなむすめ	平7	8/12	9/21	247	598
		8/12	9/22	269	623
	8	8/9	9/20	268	595
		8/10	9/20	276	591
	9	8/6	9/18	264	616
		8/6	9/19	272	622
		8/7	9/16	288	584
		8/7	9/16	295	603
10	8/7	9/17	313	615	
	8/7	9/16	320	591	
	8/8	9/17	349	595	
	8/8	9/17	349	595	
ひとめぼれ	平7	8/12	9/22	311	622
	8	8/9	9/20	—	569
		8/9	9/20	274	563
	9	8/6	9/19	270	604
		8/6	9/20	287	624
	10	8/6	9/16	354	616
		8/6	9/16	353	599

注) 玄米収量：粒厚 1.7mm 以上

3) 発表論文等 なし